

東日本大震災における災害廃棄物対策の経験に係る情報の整理ワーキンググループの概要

【ワーキングの概要】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降、約3年間の処理の過程において、災害廃棄物処理に係る多くの知見や技術が蓄積されてきたが、被災自治体の担当職員の異動や時間経過に伴い、これらの知見や技術が伝承されることなく失われることは回避しなければならない。

このため、環境省では、平成26年度において「巨大地震発生時における災害廃棄物対策検討委員会」のもとに「東日本大震災における災害廃棄物対策の経験に係る情報の整理ワーキンググループ」を設置し、災害廃棄物処理に必要な情報収集や整理の方向性や手法等について議論するとともに、関係団体が公表する各種記録や報告書等を収集し、災害廃棄物処理に携わった経験を持つ被災自治体の職員等へのヒアリング調査を実施した。ワーキンググループにおける主な検討内容を以下に示す。

【主な検討内容】

- 被災状況等に関する基礎情報の整理
 - 被災13道県の被害状況や岩手県及び宮城県の災害廃棄物処理の状況を整理した。
- 対象地区の災害廃棄物処理事業の概況の整理
 - 重点4地区として宮古地区、大船渡市、石巻ブロック、仙台市を選定し、特徴と処理の流れの概要を時系列で整理した。
- 災害廃棄物処理に係る重要事項の検討
 - 災害廃棄物処理の18プロセスごとに重点4地区の取組みを整理し、状況を取りまとめた。
- 東日本大震災における教訓の抽出
 - 他の災害にも適用可能な教訓の抽出とそれに基づく今後の備えの提案。重点4地区の律速要因（ボトルネック）を抽出、仮置場の設置・運営・撤去とし尿処理に関しては詳細に情報を集めて分析した。

出典：「東日本大震災における災害廃棄物処理概要報告書」（平成28年3月、環境省）
http://kouikishori.env.go.jp/document_video/